



営農ウィークリーNEWS



伏見稻荷大社初午大祭「京はたけ菜」を奉納



平成28年2月6日、伏見稲荷大社初午大祭が行われ、羽束師支店管内の「畑菜」が奉納されました。

初午大祭は、和銅4年（711年）に稲荷大神が稲荷山に鎮座された日に催される祭礼で、京都では古くから2月の初午の日に、油揚げと「畑菜」の辛子和えを食べる風習が残っています。

「畑菜」は、京の伝統野菜の一つで、昭和30年代までは広く栽培されていました。

現在では、生産面積が減少していることから、JA全農京都により「畑菜」の生産復興

を目指して、今秋より作付面積の拡大に取り組んでいます。

「京みず菜・壬生菜」のブランド認証産地である羽束師支店管内は、古くから、冬期の葉物野菜として「畑菜」を栽培しており、「京みず菜・壬生菜」の生産拡大に伴い、「畑菜」の作付けは、平成元年頃から減少傾向にありました。



古くから伝統を受け継がれ、在来種の選抜された優良種子を守り続けてこられたこともあり、今秋より作付けを拡大し、新たに「京はたけ菜」の名称で、出荷を開始されています。



—TAC information— 向日支店管内にて！ 農作業特殊作業機実演会 開催～♪



向日支店管内の水田で、トラクターのアタッチメントとして利用される、特殊作業機の実演会が開催されました。振動サブソイラー（弾丸暗渠）、リターンディッチャー（溝堀機、明渠）の実演が行われ、同管内では珍しい作業機に、参加者は熱心に見学しました。

「リターンディッチャー」実演の様子